

市政を問う

18人が一般質問

香月千エミ 議員



消費者と地域農業とのふれあいを

問

一世帯当たりの年間食糧費支出額約九十二万円×一万四千世帯(小城市)＝百二十九

億円。この市場性に着目し、地産地消につながる販売促進、消費拡大、地元農業を身近にするための方策は。

答

(江里口市長)

農業体験、食育、学校給食、直売所含めて地産地消を今後とも支援していく。消費者と担い手との交流を深める機会をもち、佐大との包括協定の中で小域ブランドの確立に取り組む。



▶おいしいみかんふるさとの味

駐車料金の徴収について

問

合併を選択し、さらに行財政の効率化が求められるが、県内の四市が有料、五市が無料の市職員駐車場。問題点や留意点を職員団体としっかり協議して進めていくべきでは。

答

(江里口市長)

駐車スペースとして庁舎が三百二十台、幼



一般質問は、質問順に記載する予定でしたが、写真があるところと、無いところがあり、紙面づくりの都合上、順序をかえております。

稚園、保育園七十五台、その他市有地又は市借地を駐車場としている。総合的に考えて、今後は幾らかでも負担をしてもらう方向で協議中。職員の理解を得ながら前向きに取り組んでいきたい。

この他に子どもの安全対策、主要通学路における防犯灯の設置、管理について質問しました。



▶協議中の職員駐車場

今村 昌幸 議員



新庁舎の建設による本庁方式への移行を

問 今市民に不便を来している分庁方式を本庁方式にするには、合併特例債の活用など早

い計画による新庁舎の建設をすべき。

答 (江里口市長)

最も重要な課題であり、昨年の七月より本庁方式移行検討委員会を設置し、移行方法など検討している。第一案として既存庁舎外への建設、二案として既存庁舎の場所に増築、又は改築の二つの案に取りまとめをした。

問 合併協でも五年をめどに本庁方式に移行をと、将来的には新庁舎は必要、建設場所とか具体的な計画は新市にゆだねると確認された。

五年以内に本庁方式に移行が本当にできるか、行財政改革の推進などにも支障を来している。

答 (江里口市長)

二つの案をもとにした基本構想の策定など本庁方式移行検討審議会

に示す。早い時期での本庁方式を目指し十八年の予算計上もしている。

下水道整備は文化のバロメーター

問

平成十五年度旧小城町の計画三一六ヘクタールは公共下水道で、その処理場の位置決定が必要と、昨年の六月議会で答弁された。処理場が決まらなないと事業の認可申請もできないが。

答 (江里口市長) 計画に基づいて処理場位置を含め遂行してきた。処理場について地元の了解までに至っていない。市全体計画の見直し作業をしている。

問

計画を見直すなら事業中の地域をスローダウンするなり、上部の方を早くしないと汚水は上から下へ河川の水質保全などはできない。費用と効果の問題。名水

答 (江里口市長)

小城処理区の認可を得るため努力する。

この他に、行政改革の答申を踏まえ「計画が計画」に終わらないよう、質問した。

深川 高志 議員



放課後児童クラブの対応は

問 最近、放課後児童クラブを希望する保護者が増えている。現状はどうか。また、長期

休暇中の児童クラブの内容充実と環境整備は。

答 (江里口市長)

市内の小学校は空き教室や専用施設で開設している。平成十七年度は冷暖房機器などの環境整備と指導員の確保で、市内統一して夏休み冬休みは開設し、受け入れ可能な所は四年生まで受け入れている。今年度は定員以上の申し込みがあり、三日月と牛津の小学校が

企業誘致の考え方は

問

市長のふるさとづくりプランの中にある四年間で三社以上の誘致を目指し、地元の新しい雇用の創出など掲げ

大幅に定員オーバー。可能な限り受け入れができるよう協議している。また指導員の配置や保護者の意見等を把握しながら、安心できる環境づくりを進める。

答 (江里口市長)

企業誘致をすれば、雇用も発生するので、十八年度から市として条件整備できる体制をとりたい。条件整備するための情報収集が必要であり、まず、企業誘致の担当を

致のための工業団地造成は考えてない。市有地を利活用したり、いろんな土地の斡旋を含めて、できる限り支援してゆく。今後、市として企業誘致係を設置し、企業ニーズに十分マッチできるように、また、県との連携も含めて企業誘致の実現に向けて邁進する。



▶牛津の工場団地

上瀧 政登 議員



の統合も議論しなければいけない。

答

(江里口市長)

十八年度に実施設計を行い十九、二十年度に現地での改築を考えていたが、厳しい財政状況でもあり小城市全体を包括しながら検討委員会を作りその中で整備計画を策定する。

牛津中学校の建設計画は

牛津中学校の校舎は四十六年が経過し改築の緊急性がある。同時に牛津中と芦刈中と

答

(今村教育長)

教育委員会として

は適正規模で適正距離にあるのが望ましいと考えられており今まで統合の議論はない。

急げ、共同塵芥処理場の建設

広域による塵芥(じんかい)処理場の建設は以下の理由で急がなければならない。

①老朽化による維持補修費が大きい。②焼却灰の処分が不安定である。

③処理場周辺の方々にとって長年にわたり苦労が多かった事など。

答

(江里口市長)

十八年度に建設促進協議会を再開し特別準備室を設置。十九年度に建設用地の確保、地元の同意、生活環境影響調査などを進める計画である。通常建設用地取得後三年余り経過しないと完成出来ないと考えている。地域住民に迷惑をかけ



▶牛津町にある
天山区塵芥処理場

ないように、整備を図っていく。

本庁方式への移行は

十八年度に本庁方式移行検討審議会が設置されるが、その内容は。

答

(江里口市長)

十八年度の中頃に設置し有識者などの十三名、四回程度の会合で答申を受けその内容は十分尊重したいと考えている。

諸泉 定次 議員



市内巡回バスの早期実施

市内巡回バスについて交通弱者といわれる高齢者の対策として、四庁舎や保健福祉セ

ンター、ショッピングセンターなどを結ぶコミュニティバス導入の早期実施を。

答

(江里口市長)

分庁方式での不便さは、ご指摘の通り。そこでコミュニティバスについては現在検討中で、平成十八年度中に計画案を作り、パブリックコメントを実施し十九年度に実施したい。



▶アイルを出発する巡回バス

効率的な下水道計画と企業会計システム導入

下水道事業は多額の費用を要する。効率的な運用と財政の透明性を図る企業会計システムの導入を図るべき。

答

(江里口市長)

旧町の会計で全体的な見直しと維持管理費の削減を図っている。企業会計システムは必要で

介助員制度の充実

学校現場で物事に集中しきれない発達障害の子供に対応する介助員(こどもサポート)の充実と労働条件の確保を。

答

(今村教育長)

市内十二の小中学校に十五名配置していたが、これを二十名に増や

あり、今後の検討課題だ。す。これは新入生にサポートが必要な子どもが増えたため。また介助員の継続性も考えて五年間の嘱託とする。

その他、年金裁定請求の戸籍抄本の無料化について質問しました。

江島佐知子 議員



市民の声が反映できる審議会を

審議会の運営指針の策定作業中だと思いが、

①進捗状況と内容は。

②情報公開の取り扱いは。

③各審議会の連携は。

答

(江里口市長)

①行政運営の透明性の向上と市民参加の促進のため、審議会などの設置及び運営に関する指針と市民公募に関する要領を策定中。

②市報やホームページで公開していくが、市民に分かりやすい方法が必要である。

①決済を受けて、四月一日から実施したい。

③審議会をとりまとめる部署については、市長、関係部などと協議しながら検討する。

ら検討する。

未就学児童の医療費無料化に向けて

①未就学児童の医療費無料化に向けて国や県に要望していく他に、市として独自の取

り組みは。

②インフルエンザの予防接種への助成を乳幼児にも高齢者並みにできないか。医療費の削減にもつながるのではないか。

①四年間で成果を出したい。財源の確保、調整が必要である。

答

(江里口市長)

②子育て支援の一環として総合的な観点から考

えら。医療費の抑制の点からも考えていく。

より親しまれるアイルへ

足湯でくつろぐ市民



アイルをもっと利用しやすくするた

めに、交通アクセスの方法と食事の持込についての柔軟な対応は。

答

(江里口市長)

二月から試行的に福祉バスの運行をしているが、もっと広報が必要。将来的にはコミュニティバスへの導入が必要。本格的な和食店が入居しているので食事の持込は規制しているが、公園への持込は規制していないので利用してほしい。

岸川 弘文 議員



合併効果の検証と点検を

合併効果の検証と総合窓口業務の点

検、業務拡大について再構築すること。

答

(江里口市長)

合併効果は早期効果、長期効果がある。まちづくり計画の推進は総合計画の中で、又行政改革を進める中で市民のニーズに対応できる質の高いサービスに努め、総合窓口業務内容の点検拡充は横の連携をとり可能なものについては拡充したい。

教育環境整備を求め

子供の危機回避として、安心で安全な通学路の防犯灯の設置は行政の最小限の責務である。又牛津中学校改築工事は早期に実現すべき。

全体の学校施設整備検討委員会を設置し、計画策定を進めたい。

答

(今村教育長)

教育的視点から早急に対応したい。

市道三ヶ島・大和線の県道昇格を

旧広域農道で整備された市道は、

社会情勢の変化などにより、道路利用の仕方も大

きく変化し、県道への昇格が必要である。

答

(江里口市長)

佐賀へのアクセスのための重要な道路で、平成十年から数回県に要望しており、県道昇格は小城市としては是非とも要望を継続していきたい。



県道昇格が待たれる市道三ヶ島・大和線

大坪 徳廣
議員



**小城市の観光地を
どうPRするか**

問 地域産業の活性化は、地域経済のバロメーターである。観光産業の振興は重要な位置

を占めている。観光産業の振興は重要な位置

づけで「史跡の宝庫、小城市で歴史のロマンに出会う」を本当に皆さんに実感してもらいたい。この事業のやり方次第では、無限の経済効果が期待できる。観光ガイドブックが作成されたが、これをどう活かすつもりか。

答 (江里口市長)

まず、地元の皆さん達によく知ってもらうことが第一番だと思う。ガイドブックの活用は、

タウン情報誌、メディアを含めて県内はもとより福岡都市周辺までのPRに努める。

問

佐賀市で十一月に開催されているインターナショナルバルーンフェスタの観客を小城市観光に誘導する考えはないか。

答 (江里口市長)

確かに、このバルーンフェスタは、例年

百万人近くの来場者がある。来場者の誘致、営業をいかにしっかりとできるか、地元の受け入れ態勢はどうか、周年を通じて小城の四季を味わい、グルメを味わっていただき、観光誘致に力を入れていきたい。



▶宝の海「有明海」

問 小城市には宿泊施設が少ないがどうするか。

答 (江里口市長)

もつと増やす方法として、農家型民宿というものができないかどうか。有明海から天山まで素晴らしい資源をもっている。それをまだ十分活かされていない。

高木 一敏
議員



**肺炎は治療より
予防**

肺炎にかからないための「肺炎球菌ワクチン」が今脚光を浴びている。厚生労働省に

よると、二〇〇三年は約九万五千人が肺炎で死亡。がん、心疾患、脳血管疾患に次ぐ多さである。老人医療費を下げるために、公費を助成する自治体が多くなっている。助成を

考えてはどうか。

答 (江里口市長)

既にアメリカでは認められている。国レベルでも十分考えてもらいたい。今後十分検討する。



▲肺炎予防を報じる各新聞

**なぜブックスター
トは中止か**

問

旧小城市では、親子のコミュニケーションを深めるためにブックスタートを始めていたが、合併と同時に中止されている。すべての子どもがあらゆる機会にあらゆる場所で自主的に読書ができるよう積極的に環境の整備を推進することを国の責務、地方公

答 (今村教育長)

保護者の役割、関係機関等の連携強化が条文化されている。なぜ中止した。合併にともない検討をしたが、小城市のみで実施している事業であり、当面休止をしている。非常に大切な施策と受け止め、今後前向きに検討したい。

他に「障害者の申請や手帳の受け取りが各分庁舎でできないか」との質問に市長は、「移動が無理な方には連絡を取って職員が出向くことも考えている」また、「小城市行政大綱や、改革プランについて」も質問しました。

松尾 義幸 議員



問 外科医がやめ、市民病院はどうなるか

①小児科を復活させるため、どこに大学に医師の派遣をい

つ、だれにしたか。
②外科常勤医が、三月でやめると聞いたが市民病院はどうなるか。
③情報を公開すべきだが、どう努力したか。

答 (江里口市長)

①佐大、九大、福大、久留米大、長崎大各医学部、自治医科大学へ小児科の常勤医派遣を依頼。
②四月三日までに外科医二人が退職の予定。各

方面に派遣要請をしているが、大変難しい。
③カルテの開示規定を定め、希望されれば開示する。病院独自のホームページも立ち上げを予定。

問 運動公園跡地利用の一番の障害は

①小城町の祥光山(じょうこうざん)星巖寺の東側十四ヘクタールをどのように展開するか。その展開にあ

たっての一番の障害は何か。
②温泉アイルの露天風呂に新しい湯を注ぎ、新湯注入率を上げて、日本温泉協会の評価を受けよ。
③ドウイング三日月の多目的ホール音響設備の改善は。

答 (江里口市長)

①昨年、民間の方から小城市青少年健全育成乗馬学校、鍋島の里の提案が出ている。自然環



◀総合運動公園跡地

境、歴史的な背景を十分尊重したもので、大変すばらしい提案と理解している。地元、地権者、周

辺住民の方々が理解されたいと思う。
②平成十八年度は、新しい天然温泉表示板の審査発行をするための予算を計上。
③現状でいろんな形で活用して欲しい。

この他に子育て支援について質問しました。

市丸 典夫 議員



問 公民館職員の削減はなぜ

市民が幅広く集う公民館は、地域に密着したものであるが、小城市になって現場の職

答 (今村教育長)

合併前は公民館担当職員は十九名で、うち四名が学校教育との兼務だった。現在職員総数は変わらないが、人員配置上現場職員が手薄になっている。

今後、小城公民館以外にも係長を配置し、内容充実させていきたい。

員が減少。生涯学習の場である公民館の職員を削減すべきではない。

◀汚染が心配される有明海



EM活性液の講習会を

問 私たちは、先祖から受け継いだこの自然環境を壊すことなく次世代へとつなげてい

なくてはならない。小城市は天山から有明海まですばらしい自然に恵まれている。そのすばらしい自然をどう守り育てていくのか。河川を見ると、家庭から流れ出る生活雑排水で徐々に汚されてい

答 (江里口市長)

EM菌を使った活動については、小城町では平成六年六月より、三日月町では平成十年四月より、EMぼかしを使

い、生ごみの減量化、悪臭の緩和に努めてもらっている。今後とも市民の皆さんが現在の団体を中心におお一層のごみ減量

化に協力してもらおう、EM活性液の利用方法などを含めて支援をしていきたい。



平野 泰造 議員



①新幹線に対する考えを。

②小城市内の二十の踏切の安全対策は。

③長崎本線が横断し、小城市を南北に直通する道路がない。その対策は。

③北北道路整備は、県に要望し取り組む。

有明海沿岸道路は軟弱地盤対策を

問 江北芦刈線の地盤沈下で家屋被害が出ている。

答 (江里口市長) 江北芦刈線であったことは、沿岸道路でも起こり得る問題である。県と協議、地元の方々の認識を得て進めたい。

新幹線と北北道路の絡みは

問 新幹線西九州ルート整備は、市にとって対策や振興策を持つ必要がある。

答 (江里口市長) ①西九州の人と経済の交流は必要だがもろ手を挙げて賛成ではない。②踏切対策は、地元と議論が必要。

答 (江里口市長) 道路状況は大きく変わる。道路計画部分と、商店街活性化のため今何をなすべきかが急務な課題と思う。

答 (江里口市長) 慎重に取り組み、県に意見する。



▶有明海沿岸道路 大牟田市昭和関附近

下村 仁司 議員



集落営農の対策室設置を

問 今回の米政策大改革は、二十一世紀の我が国の食料供給体制を築くという方向で具体

化されているが、このままでは市内の農家の約九割が助成は受けられず、麦・大豆作では経営が成り立たなくなる。佐城農協では対策室を作り、集落営農への取り組みを強力に推進しているが、行政も専任の対策班を作るべきではないか。

答 (江里口市長) 集落営農の組織づくりは徹底的な話し合いが基本。行政だけでなく

農協との連携で環境保全

問 県内では農協の廃ポリ回収に助成している行政もある。助成も含め、行政と農協など

答 (北島産業建設部長) 集落営農でコスト削減を図り経営安定により集落のコミュニティを守る。

牛津川堤防の整備を

問 ①牛津川東側の堤防に未舗装の箇所があるが、通学路や生活道路として多くの利用者

の連携で環境保全に良い効果が出せないか。 答 (江里口市長) 農業以外の均衡を考えると課題がある。共同回収ができれば経費、労力の削減になる。



▲フレコンが並ぶ牛津川

がある。舗装できないか。 ②江北芦刈線の上流部の一部堤防がフレコンで応急処置をしてあるが危険である。堤防嵩上げはできないか。

答 (江里口市長) ①現時点のままでは責任の所在が問題である。調査して市道認定が必要か判断する。 答 (北島産業建設部長) ②雨季前までに新しいフレコンと取り替える。国土交通省の現場視察も何回もあっているが、軟弱地盤であり、工法がまだ研究中である。

金原 修光 議員



十八年度予算編成の基本的な考えは

問 一般会計予算での基本的な考え、重点施策、財政状況は。

答 (江里口市長) 予算編成では、事務事業の必要性、優先性、効果性を十分考慮し、所要財源の確保に努力し諸課題に柔軟に対応する。

重点施策は、私の公約ふるさとづくりプランの実施計画の着実な推進をしていく。財政状況では、財政調整基金二億九千万円、減債基金二億円、公共施設整備基金三億円と各取り崩している。

問 ①厳しい財政運営の中イベントなどは。 ②県の市町村交通災害

共済組合の加入率が二十六%と低い。事務軽減から全世帯への連絡方法を考えるべきでは。

答 (江里口市長) ①歴史と伝統あるイベントは、地域のバロメーターであり、必要なものと認識している。

②交通災害共済組合の会議に参加し、私も問題提起した。

コミュニティバス導入を急げ

問 昨年六月定例議会一般質問での私の

問い掛けに調査事業、採算性、需要推計、事業手法、運転開始などを検討することのだが、現状は。

答 (江里口市長) 庁舎内の検討委員会で検討している段階で、三月末に運行計画案を策定する。バス運行は、十九年度にスタートできるように努力する。

問 今の発言に驚いている。昨年六月と九月議会での私の質問に、

十八年度実施したいと答えている。なぜ遅れるのか。市長、助役の決裁が遅れたから、このような

答 (江里口市長) コミュニティバスの導入には、私と助役でしっかりと協議した中で決裁した。

運行計画案は三月末に策定できる。市民皆さんの要望、意見を聞いて早い時期に実施したい。精いっぱい努力していく。

中島 正樹 議員



本当に愛される市民病院へ

問 新市発足以来、市民から愛される病院を目指して「市民病院の機能充実」が課題であ

る。今後の重要施策の中にある小児科の復活や確保、機能評価制度などに対する考えは。

答 (江里口市長) 小児科医師の確保については全力を挙げて動いてきたが医師確保には至っていない現状だ。

機能評価についての審査などは現在、改善のための委員会を立ち上げて、実働しているのです、その推移を見ていく。

未就学児までの医療費無料化を

問 少子化が増々進む中、子どもを産み

育てる環境の中で財政的な負担が挙げられると思うが、乳幼児医療及び未就学児の医療費助成に対する考えは。

答 (江里口市長) やはり子育てに多くの費用がかかると思う。そういう中で合併後、市

として就学前まで医療費の半額助成を行っている。この件についても私自身は就学前までの医療費の無料化を目指していく。

他に「公共工事について」質問しました。



▲子育てサークルの運動会

合瀬 健一 議員



小城市の財政は健全か

問 平成十八年度の当初補正予算より一億三千四百万円増の百六十億二

千七百万円である。歳入では、地方交付税が三億三千六百万円減の五十三億三千六百万円、市の借入金（市債）が、二億千二百万円増の十六億三千三百万円となっている。歳出面では、借入金の返済（公債費）が八千三百万円増の十六億三千八百万円である。借入金の上八年度見込み残高が百七十九億五千万円とかなり多くなっている。また、七十五%以下が望ましい

とされる経常収支比率が十七年度見込みで九十・一%と、かなり財政状況が厳しくなっている。この状態をいかにして改善するつもりか。

答（江里口市長） 第一点として増収を図っていかねばならない。経常収支比率を九十%以下を目標とすれば、歳出を十二億円から十三億円削減するために努力する。

子ども達の安全を守れ

問 現在、通学路において声かけ事案や車に無理やり押し込むなどの事件が多発している。通学路における安全の確保が一番重要でないか。

現在、小城市の通学路には、何基の防犯灯があるか、またその位置は把握できているか。通学路における歩道の設置状況は。

答（江里口市長） 通学路における歩道設置状況は約六%。小城市で管理している防犯灯は百七十五基。十八、十九年度で六百基を設置する予定。

設置はどうするか。

答（江里口市長） 主要な幹線で防犯灯が設置されていない箇所を調査し、各校区ごとに設置する予定。

問 市での管理の防犯灯が小城町三十一基、牛津町二十三基、芦刈町百二十一基、三日月町ゼロ基となっている。今年度二百基の設置の配分予定は。また歩道の

歩道の件は、安全上本当に必要なところを見定めて設置する必要がある。

堤 謙太 議員



子ども達の安心・安全は

問 ①小・中学校の生徒達が自由に選べる隣接校自由選択の導入

は。

②犯罪から子ども達を守るための安全な通学路の確保。
③放課後児童クラブについての取り組みは。

答（今村教育長） ①通学区域については要望を教育委員会に提言してもらい学校通学区域審議会で検討をする。

②通学路の安全確保は学校、地域、行政が連携を取っていききたい。
③児童クラブについては

地域の活性化は

問 公共工事の発注が少ない現在、小城市の経済の発展、雇用の確保を図る上からも地元企業に対する取り組みと振興策は。

は、午後五時までは各小学校で開設し、その後は子育て支援事業に紹介をしている。

答（江里口市長） 公共工事の発注は市内業者を優先的に取り扱うことは重要な政策であり、地元業者で施工できる工事は地元で、特殊工事は下請に地元業者を使う条件を付すなど地域要件を盛り込んで受注の機会の増大を図っている。

振興策は育成と活性化を常に念頭におき町並整備、空き店舗対策としてチャレンジショップに助成制度をやっていく。



▲建設が進む公共下水道 三日月処理区の浄化センター

適正な議員報酬とは

委員 長 大坪 徳廣 委員 三根 實
 副委員長 岸川 弘文 副委員長 岸川 英樹
 委員 合瀬 健一 委員 深川 高志
 委員 大平 竜弘 委員 樋渡 邦美
 委員 上瀧 政登 委員 中島 正樹
 委員 平野 泰造 委員 松尾 義幸

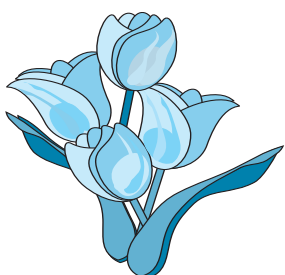
議員全員の総意により三月議会で、特別委員会を設置し今後検討していくこととなりました。

小城市議会議員報酬等 検討特別委員会を設置

県内各市の報酬状況

(平成18年3月1日現在)

市名	人口 (H17.6.1現在)	報酬 (月額 千円)		
		議長	副議長	議員
佐賀	205,063	6 9 9	6 1 3	5 5 9
唐津	132,245	5 0 3	5 4 9	4 3 8
鳥栖	63,446	4 9 3	4 4 1	4 1 3
伊万里	59,232	4 8 8	4 3 7	4 0 9
小城	47,027	4 7 4	4 1 3	3 8 6
武雄	34,458	4 5 7	3 8 6	3 6 1
鹿島	33,041	4 3 8	3 6 8	3 4 1
多久	23,306	4 3 2	3 6 3	3 3 8



岸川 英樹 議員



通学路の防犯灯設置を急げ

問 市が管轄する通学路の防犯灯の設置

状況と今後の設置計画について。

答 (江里口市長) 防犯灯は、小城市三十一基、牛津町二十三基、芦刈町百二十一基の百七十五基になっている。

今後は、まず通学路に対して、防犯灯を十八年度から二カ年計画で六百基設置する。それ以外で地元の要望で防犯灯を設置する場合は、補助金の限度額を五万円とし、設置費の二分の一の補助をする。

問 防犯灯の効果を上げる主要道路の選定は、どう考えるか。本

当に必要な時間帯に帰宅するのは、中学生、高校生が主だと思うが。

答 (江里口市長)

主要な幹線に防犯灯設置が、市、あるいは行政区で設置されていない箇所を調査し、各校区ごとに設置をする。六百基で目標を達成する見込み。

答 (永瀧総務部長) 六百基は百メートル間隔で考えている。通

学路をスケールアップして、集落と集落の間の部分を測って、判断をしている。

問 通学路以外の防犯灯設置の補助金、市側と集落側の区別、どこでするのか。

答 (江里口市長) 集落境の判断は、

その集落の方と自治体の話し合いで判断する。通学路以外の設置については、予算が限られており、各区長の申請を把握して、要望を受け優先的に年次でやりたい。今回は、通学路を重点的に二年間、六百基をやりたい。



▲防犯灯設置が待たれる三日月の通学路